

父の仕事と水

父は、「水のエキスパート」だと話を聞いて僕は思った。といつても父は科学者でもない。

父が勤めているのは、近くにある液晶テレビ製造工場で使う水を扱う所だ。父の話によると、液晶テレビの液晶を洗うとき、不純物が一切入っていない純水でしか洗ってはいけないので、純水を水道水から作っていくことをするらしい。ちなみに純水は飲めるらしいが飲むと体調が悪くなるそう。なぜかと聞いてみると、あまりにも何も不純物が入っていない水を飲むと、体の中にしみ込みすぎて、逆に体調が悪くなるのだそう。人間の体とていうものは、良くできていいのか、悪くできていないのかよくわからない。

次に、液晶を洗った水を川に戻すために、川の水へと中身を近づけていく。川に戻すこ

天理市立福住中学校 三年

金谷 卓哉

との出来る所まで水を戻すと水を川に戻す。その時、社長が水の入っているタンクの水を社員の前で飲むらしい。そして安全であることを確認してから川へ戻すらしい。

僕は、父が勤めている会社の名前が水と関係してなさそうな名前だったのでまさかそんな仕事をしていたとは知らず大変驚いた。そして、「水」のためだけにそこまでしているのかということにも驚いた。確かに水は大切だということにはわかってる。水がなければ生きていけない。そんなことは言われなくてもわかってる。水にも限りがある。それなのになぜ人は水を無駄に使ってしまうのだろうか。

こんな話を何かで読んだ気がする。

「両手の中に水を入れられて先生が手の中に w、a、t、e、r（水）と書いた。へレ

ンケラーはそれで水を知った。」
もしかしたら僕は水のことをなにも知らな
ない。水のこと何も見えていないのかもしれ
ない。

蛇口をひねればすぐ水が出るし、断水なん
ていつかあったような気がする、という程度
で、ほとんどのない。近くの川も特別汚いと
いうこともない。サワガニや魚だっている。
水が無くて困ったこともない。だから、水不
足で困っている地域があるとニュースで聞い
ても「あつ、そう」と軽い気持ちでチャンネ
ルを変えてしまう。

僕は父の仕事のように水を大切にしてきた
だろうか。無駄に使っていないだろうか。そ
う言われると、少し考える自分がいる。

僕は思った。世界で水はどうなっているの
か、もつと知ろうと。今までは自分の周りの
ことしか見えていなかった。いや、自分の近
くの川、自分の住む地域の水にも関心がなか
った。水不足と言われてもあまりピンとこな
かった。自分で体験してみるとこのはなか
な難しいが、調べて知るとこのことは、や
ろうと思えばいつでも出来る。「知る」こと

で自分はどれだけ水の無駄使いをしてきたか、
これからどうすればよいのかがわかるような
気がする。

将来、子供に水のことについて教えるとき
子供の小さな手に入れられる水はどのぐらい
だろう。一滴しかない手の平にw、a、t、
e、rとは絶対に書きたくない。

